

普及活動情勢報告

情勢報告（平成26年11月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

情勢報告

平成27園芸年度ピーマン部会のアドバイザー巡回スタート（10月29日）



四万十町興津地区の促成ピーマン部会のまとまり事業にかかる営農アドバイザー（以下AD）等による巡回指導が行われました。このAD巡回は、まとまり事業の一環として篤農家技術の普及をJAと連携して実施しているものです。普及と営農が実施した技術指導により改善が図られているかどうかを、ADと確認しながら巡回しました。今後も引き続き篤農家技術の普及を連携して取り組んでいきます。

JA四万十ニラ部会出荷検討会（11月20日）



市場・園芸連担当者からは市場動向、JAからは前年度より販売額が約1億円回復したことを含めたH26園芸年度出荷概要の報告があり部会員は熱心に聞いていました。普及所からは「環境制御技術の基礎等」を説明し、炭酸ガス施用により厳寒期の収量が大幅に増えていることが再確認され、環境制御技術への関心が高まりました。今後は、有志により結成されたJA四万十新施設園芸研究会へ環境制御技術向上のための支援を行って行きます。

JA高知はた十和支所柚子部会目慣らし会（10月30日）



JA高知はた十和支所柚子部会で目慣らし会が開催され、農家22名が参加しました。柚子は外観が重要視されることから、目慣らし会では果実の大きさや果皮の色を揃えて箱詰めすることや黒点病の罹病果は箱詰めしないことなど、出荷時の注意点が話し合われました。普及所からは、果実の腐敗防止のため、ハサミなどによる生傷や果実への泥の付着など作業時の注意点について呼びかけました。今後も普及所では青果率向上に向けた支援を行って行きます。

(株)サンビレッジ四万十定例会（11月21日）



経営多角化（太陽光発電事業）を検討

(株)サンビレッジ四万十（旧農事組合法人ビレッジ影野）の常時従事者5名、会計担当1名と、今年度の事業進捗状況や次年度計画についての意見交換を行いました。基幹3品目のうち、水稻、ショウガの収穫が終わり、当初目標売上高は達成見込みであることを確認しあい、次年度の経営多角化にあたっての栽培品目について情報共有を行いました。今後も、次年度計画作成に向け、情報提供等を行って行きます。

集落営農組織による平成26年産稲WCS栽培反省検討会（11月19日）



集落営農組織代表者5名、作業受託組織2名、関係機関が今作の反省と来作の作付計画を検討しました。

普及所から品種比較試験の結果、‘リーフスター’は高収量、‘タチアオバ’‘たちすずか’が作期分散対応品種であることを説明しました。農家からは「‘たちすずか’を栽培してみたい。」「試験品種を活用し、高収量を目指したい。」等の意見が出され、来年度も各組織1ha以上作付する方向で意見がまとまりました。

今後も、管内の集落営農組織と受託組織の組織関連携や畜産農家との耕畜連携に向けた取り組みを推進していきます。

伝統野菜の活用研修会（11月17日）



四万十町奥大道地区で昔から栽培されている伝統野菜（大根、蕪、高菜）の活用研修会を四万十町役場十和地域振興局で行いました。研修会には、伝統野菜栽培農家や株式会社おかみさん市の会員ら10名が集まり、野菜ソムリエの斉藤香織氏から素材を活かした調理方法等のアドバイスを受けながら、料理の試作を行い、今後の活用方法についての意見交換を行いました。

11月30日に開催される十和おもてなしツアーでは、今回試作した料理のいくつかが、振る舞われる予定です。

産直に関する講演会（11月21日）



高南地域営農協議会 販売・加工部会主催による講演会がJA四万十で開催され、JAみどり市の生産者部会員及びJA四万十女性部、手作りキッチンのスタッフら33名の参加がありました。

講師にJA静岡市茶業センター長の浅場貞文氏をお招きし、産直に出荷している生産者の生産意欲の向上に繋がる事例や、集客力を高めるための品不足の解消等をテーマにお話を伺うことができました。